



第57回 通常総代会を開催しました。

6月11日(金)、京都生協本部にて第57回通常総代会を開催し、第1号から第7号までの全ての議案が賛成多数で可決されました。

総代会とは、生協の運営に関わる重要事項を決定する最高の**意思決定機関**です。毎年6月に開催され、組合員の代表となる「総代」が参加し、京都生協の1年の予算や年間の活動方針、役員の選出などについて確認します。今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年同様規模を大幅に縮小して開催しました。総代507人中456人が出席(書面による出席448人を含む)しました。今総代会では、210件の「私の想い(発言用紙)」が寄せられました。

総代会の開催にあたり、京都府知事・西脇隆俊様、京都市長・門川大作様から祝電をいただきました。

新型コロナウイルス 感染症対策を行いました



マスク着用の徹底をはじめ、会場入口ではアルコールで手を消毒、受付はソーシャルディスタンスを守って並んでいただきました。会場は最少人数での開催とし、他の理事、監事、職員は別室に分かれて Zoom にて視聴しました。

これまで、そしてこれからも 「頼もしき隣人たらん」の精神で

京都生協は1964年、「頼もしき隣人たらん(お互いが頼もしい隣人でありましょう)」との呼び掛けで誕生しました。以来、助け合いの精神を大切にしながら、食の安全・安心の追求をはじめ、誰もが安心して暮らせる地域社会の実現に向けた取り組みを行ってきました。これまでともに歩んできた組合員の皆さま、行政をはじめ生産者や取引先など、多くの関係者の皆さまに感謝を申し上げます。



理事長 畑 忠男

今、日本でも世界でも、地球温暖化や平和の問題、貧困や格差などの問題を抱えています。これらの課題解決に向けて、国連を中心に持続可能な社会の実現に向けた大きな動きであるSDGs(持続可能な開発目標)の取り組みも進もうとしています。そのような中、協同組合の役割発揮も期待されています。

コロナ禍で「つながり」や「助け合い」の大切さが再認識される中、事業と活動を通じて一人ひとりの普段の暮らしを支え、さらには、SDGsの実現など社会的な役割を發揮します。京都生協はこれからも未来に向けて明るい希望を創造できる、頼もしい存在であり続けます。

2020
年度

取り組んだこと ～特徴的な取り組み～

宅配

- eフレンズのリニューアルを行い、インターネットでの注文・履歴の管理などがさらに便利になりました。
- 洛西・城南支部を移設・拡充しました。



店舗

- コロナ対策として3密を避けるため、きょうまるカードチャージデーを複数日設定しました。
- 「子育て応援」の対象年齢を中学校卒業までに広げました。



京都生協の理念と2030年ビジョン

- 京都生協の「理念」を再整理し、「2030年ビジョン」を決定しました。
- 理念・2030年ビジョンの視覚的表現のため、ブランドロゴを一新しました。

こちらから
ご覧ください▶



持続可能な生産と消費、事業の推進

- 食品ロス削減のために、宅配「食品の良品返品ルール」の推進や「フードドライブ」実施店舗の拡大を進めました。
- プラスチック問題への対応として、レジ袋削減を呼びかけました。フェアトレード商品のオリジナルバッグも制作・供給しました。



2021
年度

取り組むこと

宅配

- 新型コロナウイルス対応で2020年度大きく伸長した利用を維持します。
- 「夕食サポート」「コープでんき」など、暮らしを支える商品やサービスを広げます。



店舗

- コープらくさい、コープ下鴨の改装を成功させます。
- コープ山科新十条を地域に定着させ、併設の洛東支部と連携した取り組みを進めます。



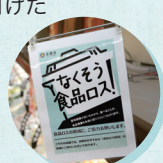
自然災害・感染症への対応

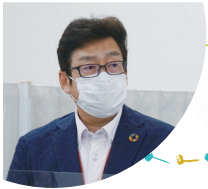
- 新型コロナウイルス感染拡大防止を徹底し、役職員の感染予防対策を継続します。
- 役職員の緊急連絡訓練を定期的実施します。



社会的な役割

- 「2030年事業活動におけるCO₂排出量の2013年度比40%削減」に向けた取り組みをスタートします。
- プラスチック使用量、食品ロス削減の取り組みを進めます。





私の想い 今総代会には210件の発言用紙が寄せられました。

まとめ報告(要旨)

集まった「私の想い」を、大きく4つの分野に分けてご報告します。

専務理事 大島芳和

1. 事業継続についての感謝の声

今年も昨年に引き続き、コロナ禍での宅配や店舗での商品の供給、福祉や葬祭の事業継続についてたくさんの感謝の声をいただきました。そうした声が、役員、そして生産者、取引先の皆さんの励みになっています。改めて、組合員の皆さんの商品やサービスの利用とお声かけに対して感謝申し上げます。

2. SDGs(国連が定めた持続可能な社会実現のための目標)に関わる意見

「小学校の授業でもSDGsが取り上げられ、親子で関心の高いキーワードになっている」、「できることから、一人ひとりが始めることが大切」などの意見をいただきました。

京都生協は1960年代から容器の簡素化をはじめ、1980年代には粉石けんの利用を広げる洗剤運動や食品添加物削減の取り組み、1990年代には地球環境問題と向き合い、リサイクル活動とさらなる容器・包装簡素化の取り組み、2000年代には、遺伝子組換え食品への対応や事業活動に伴う二酸化炭素排出削減、コップでんぎの取り組みなどを進めてきました。

京都生協や日本生協連の取り組みは、社会への問題提起と率先した行動となり、社会システムの変更をつくり出してきたと言えます。まだまだ、地球環境の現状や社会状況からすれば不十分な点や現時点で相対的に立ち遅れた分野があることも事実です。一歩一歩前に進めていく努力を行います。

3. デジタル化に係る課題

「eフレんズが改善されて使いやすくなった」「Zoom、やってみると楽しかった」「議案検討会議がウェブで開催できてよかった」「コロナでの対応としてレジでカードの受け渡ししなくて済むようにしてほしい」などの意見をたくさんいただきました。

デジタル化を進めるうえで、単に便利というだけではなく、環境対応や合理的活動になるよう工夫を重ねていきます。また、コロナ禍での対応として、買い物時に非接触型のレジ精算ができるよう工夫していきます。この分野の取り組みは、他の流通企業と比べると若干遅れているところでもあります。レジシステムの変更や京都生協アプリの開発で、より便利で安心してご利用いただけるよう改善を進めます。

一方で、リアルな交流や顔を合わせた会話が大切です。ウェブとリアルの取り組みをバランスよく進めることに留意していきます。また、eフレんズやZoomなどへの参加促進のため、希望者への個別援助を強めていきます。

4. プランディングについての意見

「新しいロゴマークは目指している方向を分かりやすく表現している」、「36年ぶりの変更と聞いて驚いた！新しいイメージ、かわいい」などの意見をいただきました。

京都生協設立の想いやコップ商品・産直商品の開発のエピソードや産地のメッセージなど、伝えたいことはたくさんあります。これまでの安全・安心・信頼の上に立って、京都生協がさらに役割を果たすこと、地域を豊かにすること、そして持続可能な社会の実現に貢献するといったロゴマークの変更は、ある意味必然と言えます。信頼に応えられるよう組合員の皆さんと一緒に京都生協のブランド価値を高めていきたいと思います。

このほかにも、たくさんの意見をいただきました。どれも一つひとつが重要な意見と受け止めています。日本生協連やコップきんぎ事業連合、協力企業・団体と連携しながら改善していきます。

さて、今年の剰余金処分案に3000万円の新型コロナウイルス感染症等災害対応・支援貢献積立金の積み立てを提案しています。うち1000万円は、京都市動物園の動物たちが十分な食事がとれるよう、動物園に寄付したいと考えています。コロナ禍で京都市の財政が厳しくなり、街路樹の剪定葉や市場などに出る野菜くずなどを動物たちの食事に活用されているそうです。少し悲しい話です。京都市動物園のサポートである京都生協として、継続的なサポートの取り組みになるようにしたいと思います。

6月12日の京都新聞朝刊で、京都生協がロゴマークを変更したことが掲載されます。キャッチコピーは「変わらないために、変わります」としました。2021年の事業もスタートして2カ月が経過しました。昨年の利用の実績からは後退していますが、組合員の皆さんの期待に応えるべく努力を積み重ねてまいります。

京都生協の基本的姿勢は変えることなく、事業や組合員活動は皆さんの要望の実現、社会からの要請に応えていくために、変化をいとわず、取り組みを進めていきたいと思います。

この6月から理事会も新しい体制での運営がスタートします。きっと、皆さんに新しい風を送り込むことができると思います。一緒に考え、行動し、京都生協という事業体を活用して暮らしを、心を、社会を豊かにしていきます。

第57～58期

新役員が決まりました

地域区選出理事

北ブロック 東ブロック 西ブロック 南ブロック 両丹ブロック



山本 史美



吉岡 恵



川上 麻夕美



林 美和



大槻 知美



塩見 由紀子



姜 美名



吉田 美由



平石 信子



岡田 玲子

全域区選出理事



理事長 畑 忠男



副理事長 川村 幸子



副理事長 洞井 加奈子



専務理事 高倉 通孝



常務理事 鮫江 賢光



常務理事 吉岡 克巳



有識 青木 美紗



有識 江頭 節子



有識 高山 一夫



有識 宮本 茂樹



有識 谷口 一宏

監事



常勤 河野 直



近藤 恭子



日岡 豊子



有識 飯島 敬子



有識 神本 満男



有識 北川 太一

新専務理事あいさつ



高倉 通孝

第57回総代会で大島前専務理事の退任に伴い、専務理事に就任しました高倉通孝です。総代の皆さんから、暮らしに関わる「想い」や「願い」がたくさん寄せられました。一つひとつの声をしっかり受け止め、組合員の願いや社会の要請に寄り添った取り組みを進めていきます。未来に向けて明るい希望を創造できるような京都生協と一緒に頑張っていきましょう。

退任のあいさつ



柴田 前副理事長

今総代会をもちまして7人の役員が退任し、新体制となりました。総代の皆さまからは生協への期待や感謝、平和な持続可能な社会への賛同、エシカル、SDGs推進に共感する声をいただき、心より感謝申し上げます。課題もありますが、お互いを認め合い、力を合わせることができれば、希望と笑顔の輪が広がると 생각합니다。最後に、1日も早いコロナの収束とともに、皆様のご活躍とご健勝を祈り、退任のあいさつといたします。

議案採決結果

総代出席状況

本人出席 6 委任状 0 書面出席 448 合計 454
(採決数は議長 2 人を除く)

議案	反対	保留	賛成
第1号 2020年度 事業報告、決算関係書類承認の件	4	4	多数
第2号 2021年度 事業計画および予算決定の件	5	5	多数
第3号 定款の一部改定の件	1	2	多数

全ての議案が賛成多数で可決されました

議案	反対	保留	賛成
第4号 監査法人監査規約の一部改定の件	1	2	多数
第5号 第57～58期 役員選任の件	4	6	多数
第6号 役員報酬決定の件	6	17	多数
第7号 役員の退職に伴う退職金支給の件	5	16	多数

2020年度 事業の到達

■ 総事業高 905億8571万円 (予算差+ 94億571万円)

供給事業	実績	予算差	前年差
宅配事業	607億219万円	+75億2119万円	+76億5266万円
店舗事業	266億8723万円	+18億2923万円	+26億4635万円
葬祭事業	9242万円	△357万円	+2万円
供給高合計	874億8185万円	+93億4685万円	+102億9904万円

- 福祉事業収入 4億7923万円 (予算差△2076万円)
- その他事業収入 ※1 26億2462万円 (予算差+7962万円)
- ※1 共済受託手数料や葬祭承り手数料、個配手数料などの収入

■ 2020年度経営結果

経常剰余金 ※2	25億5877万円 (予算差+17億5877万円)	当期剰余金	16億6858万円
特別損失	1億3366万円	前期繰越剰余金	5308万円
税引前当期剰余金	24億5472万円	社会貢献活動積立金取崩額	100万円
法人税等	7億8314万円	せいきょう牛乳50周年積立金取崩額	2000万円
法人税等調整額	299万円	新型コロナウイルス対応貢献積立金取崩額	1000万円
※2 事業総剰余金から事業経費・事業外収支を差し引きした金額。通常の事業活動をして最後に残った利益です。		当期末処分剰余金	17億5266万円

■ 2020年度剰余金処分

法定準備金	1億7000万円
出資配当金	1億6700万円
任意積立金	13億2700万円
・経営基盤安定積立金 ・システム最適化積立金 ・新型コロナウイルス感染症等災害対応・支援貢献積立金 ・人材育成積立金 ・社会貢献活動積立金	
次期繰越剰余金	8866万円

■ 出資配当率 1.00%

2020年度の出資金に対する配当を年1.00%(税引き後0.7958%)とすることを決定しました。本事業年度末(2021年3月20日)に出資金残高を有する組合員で、かつ、本総代会当日に籍している組合員に対して配当します。